

5 小川地域まちづくり構想

5-1 地域の現状

■概況

本地域は、焼津市の中央東部に位置し、面積は約 297ha で地域の約 4%を占めています。昭和 30 年に小川町から焼津市に編入されました。

地域内には、中央に黒石川と泓の川が流れており、東部には駿河湾に面した焼津漁港（小川地区）があるなどうおいがあある地域です。また、地域の大部分で土地区画整理事業による住環境の整備が行われており、住宅や店舗の立地が進んでいます。

今後は、焼津漁港（小川地区）や幹線道路の充実などにより、人や物資の交流が進むことが予想される地域です。

小川地域 位置図



■人口の推移

平成 27 年における本地域の人口は 13,994 人、世帯数は 5,470 世帯となっており、経年的に人口は減少傾向に、世帯数は増加傾向にあります。

年齢 3 区分別人口割合は、15 歳未満及び 15 歳～65 歳未満が減少傾向に、65 歳以上が増加傾向にあり、少子高齢化の傾向が年々強まっています。平成 27 年における 65 歳以上人口の割合は 28.3%で、市全体に比べて、高齢化率がやや高い地域となっています。

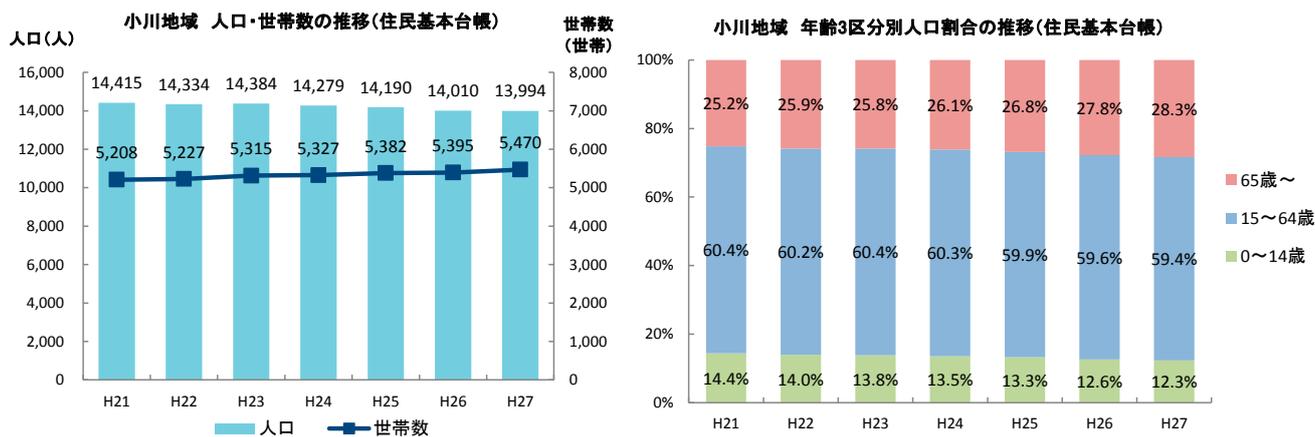


図. 小川地域における人口・世帯数及び年齢 3 区分別人口割合の推移
(住民基本台帳より：H24 までは日本人のみ、H25 以降は外国人を含む)

5-2 地域の将来像

小川地域の将来像

- 暮らしやすく人に優しいまち
- 歴史と文化を学び、次代につなげるまち
- 災害に素早く対応できる安全・安心なまち

5-3 地域のまちづくりの課題

◎地域のみどころの活用と良好な生活環境づくり

- ・焼津漁港（小川地区）周辺においては、現在の物流・生産機能の維持・発展を図るとともに、多くの市民、地域住民、観光客等が交流し、にぎわいを創出する魅力的なまちづくりを進める必要があります。
- ・土地区画整理事業等により計画的に整備された良好な市街地環境の保全を図る必要があります。また、さらなる定住促進やにぎわい空間の創出を図るため、現在実施中の土地区画整理事業の早期完了と、小川大住地区における新たな市街地環境の形成について検討を進めることが必要です。
- ・いつまでも住み続けることができる良好な住環境を創出するとともに、生活者や来訪者の利便性・安全性を高めるための交通環境の創出を図る必要があります。

◎うるおいのある水辺環境と地域固有の歴史文化資源の活用

- ・黒石川や泓の川などの地域を流れる河川や、焼津漁港（小川地区）などの水辺をつなぐ、水と緑の風景を楽しめるうるおいのある歩行者空間の創出を図る必要があります。
- ・熊野神社や永豊寺など、地域にのこる歴史文化資源を保全するとともに、まちづくりに効果的に活用する必要があります。

◎地域の活力向上と、地震・津波などの自然災害への備えの充実

- ・地域活動の中心地である小川公民館などを有効活用したまちづくりを進める必要があります。
- ・地震による津波被害の防止・軽減を図るため、焼津漁港（小川地区）周辺において、静岡県との協働により津波対策を進めるとともに、避難地や避難路の整備などによる安全確保を図る必要があります。
- ・大雨時の河川氾濫・道路冠水等を防止するため、黒石川や泓の川などの地域を流れる河川とその流域について、総合的な治水対策を進める必要があります。
- ・過去の自然災害の発生状況や教訓をもとに、自然災害に対する危険性や正しい知識を習得するなど、地域住民の防災意識の向上と防災活動の充実を図る必要があります。

5-4 地域のまちづくり方針

①焼津漁港（小川地区）をはじめとする、地域のみどころを活かしたにぎわい・交流を創出するまちづくり

- ・ 産業・観光交流拠点である焼津漁港（小川地区）周辺においては、市民や観光客でにぎわう拠点を形成しつつ、物流・生産機能の充実などにより、産業の振興を図るとともに、産業を通じた観光交流を促進していきます。また、小泉八雲ゆかりの海蔵寺など、地域の見どころをネットワーク化することにより付加価値を高めていきます。
 - ・ 南部土地区画整理事業を推進するとともに、（都）焼津駅道原線の沿道サービス地から小川大住地区の市街地環境整備検討地（P19 参照）においては、道路交通の利便性を活かし、地域のにぎわいと交流が図られる施設の立地を促進します。また、安心して子どもを産み育てることができるよう周辺に住環境と調和した沿道環境の形成を図ります。
- 
- 市街地環境整備検討地
（小川大住地区）
- ・ 会下ノ島石津土地区画整理事業においては、地区計画制度を導入し、安全で快適な住環境及び就業空間が確保されたまちづくりを推進するとともに、会下之島公園など、子どもから高齢者まで誰もが、利用しやすい公園などの確保に努めます。
 - ・ 市内の円滑な移動を可能にするため、（都）志太海岸線、（都）黒石通り線などの都市計画道路を計画的に整備するとともに、子どもから高齢者まで誰もが、安全・安心・快適に通行できる空間づくりに努めます。また、地域住民の日常の足の確保と利便性向上のため、利用需要に応じた公共交通ネットワークを検討します。

②黒石川・泓の川などの自然資源を活かした景観まちづくり

- ・ 焼津漁港（小川地区）など富士山や駿河湾を望む海辺景観を保全するとともに、これら地域ならではの景観資源をPRしつつ、市街地の景観の向上など観光客も視野に入れた環境づくりを進めます。
- ・ 黒石川や泓の川など地域ならではの自然資源を結ぶ、豊かな水と緑を市民が身近に感じることができるまちづくりを進めます。

- ・小川公園や豎小路公園などでは、緑や花で人々にやすらぎやくつろぎなどを与えるとともに、健康づくりやスポーツ・レクリエーションの場を創出します。
- ・熊野神社、永豊寺など地域ならではの歴史文化資源を守り、活かすための地域独自の景観まちづくりを推進します。

③小川公民館などを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりと、 焼津漁港など地域の特性を踏まえた防災・減災まちづくり

- ・小川公民館や小川公園など、地域活動の中心地にある既存施設を有効活用して、子どもや高齢者まで誰もが、集い、憩うことのできる場づくりを進めるとともに、地域特性を活かした、地域住民主体の活力あるまちづくりを進めます。また、高齢者が、積極的に社会活動に参加し、生きがいつくりに取り組めるような環境づくりを進めます。



小川公民館

- ・焼津漁港（小川地区）において、漁港の管理者である県が実施する、防波堤等の粘り強い構造への改良などによる減災対策の取組を促進します。また、津波から迅速に避難することができるよう、地域の実状に合わせて、民間中高層建築物の津波避難ビルの指定・普及に努めます。
- ・台風や集中豪雨などに起因する水害の防止・軽減を図るため、黒石川や泓の川などでは、河川の特性を踏まえた整備と維持管理を進めるとともに、総合的な治水対策を推進します。
- ・地域の子どもから高齢者まで誰もが、普及・啓発活動や防災教育等を通じて、防災意識を高揚させるとともに、災害ボランティア活動への参画を促進し、地域における防災活動を積極的に支援します。

